

## ～テロに対する特別な警戒が必要です～

- 1 フランスでは、2015年11月のパリ同時多発テロ事件以降に発出されていた非常事態宣言が2017年11月1日に解除されましたが、テロの脅威に対処するため、テロ対策の強化に関する新たな法律が施行されています。欧米において不特定多数を標的とするテロや襲撃事件が続発していますので、引き続き注意が必要です。
- 2 フランスへ渡航・滞在される方は、テロ事件に巻き込まれることのないよう特別な警戒が必要です。具体的には、以下に努めてください。
  - 最新の関連情報の入手に努め、滞在先や個別の訪問先の治安状況や警備体制を確認するなど、不測の事態を想定し、行動する。
  - 不特定多数が集まる場所（公共交通機関、観光施設、デパートや市場、競技場、その他イベント等の会場等）を訪問する場合には、滞在時間を可能な限り短くし、避難経路を確認しておく等の安全対策を必ず講じる。
  - 政府・治安機関には近づかない。
  - 周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場を離れるなど安全確保に努めるとともに、現地当局の指示があればそれに従う。
- 3 その他、詳しくは、スポット情報、広域情報や以下の資料を御参照ください。

### 安全対策基礎データ

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure.asp?id=170>

### テロ・誘拐情勢

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=170>

(※)2015年以降にフランス国内で発生したテロ事件等

- 2015年1月、イスラム過激派に影響を受けた男らにより、パリ市内に所在する新聞社が襲撃されて多数が死傷したほか、ユダヤ系スーパーに武装した男が立てこもり、買物客が死傷。
- 2015年11月、パリ市内の小劇場、レストラン、カフェ等及び北部近郊の国立競技場において、連続テロ事件により多数が死傷。
- 2016年7月、ニースにおいてフランス革命日を祝う花火を見物する客の列にトラックが突入し、多数が死傷したほか、フランス北部ルーアン市近郊の教会が襲撃され、神父等が死傷。
- 2017年2月、パリ市内のルーヴル美術館で、刃物を所持した男が兵士を襲撃。
- 2017年3月、オルリー空港で、男が兵士を襲撃し武器を奪取した。
- 2017年4月、パリ市内のシャンゼリゼ通りで、男が警察官らに対し銃撃。
- 2017年6月、パリ市内のノートルダム寺院で、男がハンマーを用いて警察官を襲撃。
- 2017年6月、パリ市内のシャンゼリゼ通りで、国家憲兵隊の車両に車が突入。
- 2017年10月、マルセイユの鉄道駅構内で、刃物を所持した男が歩行者を襲撃し2名を殺害。